

561

## 日本人と海

宇田道隆

(東海大学教授・日本海洋学会長)

日本は海に囲まれた国だから海との関係は特別に深く、空気や水や親の有りがたさと同じ様になくなれば今さらのようにわかるものらしい。冬季に大陸の方から吹く寒い季節風が日本海の暖水にふれて濛々と湯気を立てる蒸発霧になるが、この海面から吸い上げられた水分が脊梁山脈をこえるときに雪か雨になり、豊富な水と温熱の供給源になるし、梅雨期にはオホーツク高気圧と小笠原高気圧の間の停滞前線が雨を降らせて早苗田に降り注ぎ、夏秋は台風が南海の水分を運んで注いでくれる。1億もの人がこの狭い国土に暮して行けるのにこのような海の恩恵は大きいものである。

日本人自体どこからやって来たか？ 海流との関係は大へん深いものようである。柳田国男先生は「海上の道」を説かれ、稲をもたらしした古代日本人が南西方からやって来たものとされた。南方から黒潮に乗ってやって来た釣針持参の太平洋海洋民族も表日本の方にはいた。朝鮮半島やアジア大陸側からもずいぶん漂着した人たちも多い。男鹿半島(秋田)の「生ま剥げ」という奇習の主役は実は真冬の大陸系の異相の漂民だったと思われる。

能登の「御陣所太鼓」も海辺で踊り狂う凄壮な鬼(異国漂民と思われる)の踊りである。須佐之男の命や、大国主の命や、神功皇后、光明皇后などが大陸の方と特に関係の深かった方々と言いつづけている。大江山の酒頭童子も異形の漂民が内陸に入りこんで、肉食したものだろう。古事記から八またのおろち族もそうした仲間と思われる。太平洋側にもずいぶん「赤鬼、青鬼」の伝説がある。八丈島の鬼の話はよく知られている。黒潮流域にも熊野の鬼ヶ城などの棲家は漂民の着きやすい場所に多い。秦の徐福は一族をつれて東海の小島蓬萊に不老不死の靈薬を求めて熊野の新宮付近に漂着したということになっている。八丈島にも同様の伝説がある。

和田雄治博士は古記録を調べて、呂宋(フィリッピン)、安南、交趾、南蛮のような遠方から南西季節風海流—黒潮の漂流経路をたどって日本に漂着して来た漂民があり、また大陸系の渤海国、肅慎国の使者たちが朝鮮東岸沿いに九州太宰府を目指して南下しながら、大風と対馬暖流で押し流されて大がいに能登方面に漂着している。太平洋側でも黒潮と偏西風に押し流されて日本からアメリカ大陸に漂着した多数の例がある。中米のエクワドルで日本の縄文時代の土器が発見されたり、伊豆沖で難破した千歳丸はメキシコ沿岸にまで漂着した。マクロ漁船良栄丸は銚子沖で難破して11ヶ月漂流の後全員白骨になって北米シャトル沖で発見されている。筆者はカナダの太平洋岸ヴァンクーバー島のナナイモで小博物館を訪れたとき百年前土中から掘り出した古い日本刀を眼前にして、漂着のサムライを偲んだ。

偉大な古代の航海民族だったポリネシアの人々は南方からの古代日本人と密接な関係があったものと思われる。釣針などの漁具や漁法の類似が日本人と南洋、南太平洋の海の民の間に多く見出される。神武天皇御東征、隋唐時代～平安鎌倉時代の日中海上交通、八幡船の和寇時代から御朱印船時代と波濤を貫いての勇敢な船長たちの航海の歴史的経験はもっと科学的に見直されてよいではないか？ 降って北前船の航海もある。瀬戸内の水軍、熊野水軍など海賊衆から御船手方になるまでの発生と興亡史は興深く、上古の阿部比羅夫の水軍の北国蝦夷征伐、肅慎遠征の大航海にまでつながる。これらはすべて海流や気象と深い関係がある。海流のかみからしもへと人も文化も運ばれ、伝達して行った。地名まで次々にと運ばれた跡が追い求め得られる。俚謡や舞踊、風俗、民具などを吟味しても、神社の祭神、その宝物、銅鐸、土器などからも海流の方向に対馬暖流系、黒潮系の変移を追うことができる。かつて先住のアイヌは

俳句

俳句うらばなし

河太郎

九州、四国の方まで分布し、北に戦いつつ追われて行ったが、奥州、羽越では最も激しい抵抗を示し、戦いは数百年に及んだ。だが彼らは決して滅亡したのではない。何代ものうちにみじくも混血を重ねて現代にまで日本民族の中に生きている。大陸にあって北の夷狄も南越の蛮も現代の中国の中にとけこんでしまった。

しかし、遠く日本民族の源流を探ればどんな流れが波状をなして、ひたひたと数百万年の歴史のうちに動いて来たのであろうか？

アフリカのタンガニカ、ヴィクトリア湖畔こそ人類の発祥地だという定説から出発しよう。

大地溝帯を北上し、地中海沿岸からイラク、イランのパミール高原を経て、ヒマラヤの高地民族からビルマ、ラオス、タイ、ヴェトナムの高地より南支那の海南島高地～台湾高地～琉球～九州へ分れてヒマラヤ（天山）の北方から蒙古～北支那（北満）～沿海州及び朝鮮半島からの一分派、さらに元から分れたアフリカ東岸～インド洋諸島沿岸～スマトラ～セレベス及びボルネオ～フィリピン高地及び南洋から～台湾～黒潮諸島～日本太平洋岸（南九州を含む）の分派を頭に描くものである。ポリネシア人やアメリカ・インディアンやエスキモーとの日本人のつながりも案外近いもののように思われる。インカ、マヤの人々も遠い霞の中のようにであるが親近の縁を覚える。ヘイエルダールはエジプトから西へ、インカの国からタヒチ、サモアへの流れを証明しようとラ号の草船、コンチキ号のバルサ材の筏にのって大西洋、太平洋横断の冒険航海を敢行した。彼は正にヴァイキングの子孫たるに愧じない海の男である。

このごろでは日本人でも大洋横断のヨット航海を敢行する勇敢な若人が続出する。60何歳で世界一周航海をヨットで達成した英国のフランシス、チチエスターにはさすがだと全く頭が下がる。

だが今筆者は特に声を大にして言いたいことは、あのヘイエルダールのラ号航海でサルガッソー海で遭遇した廃油の海洋汚染である。日本近海でも釧路水産試験場などの報告によると黒潮流域から北海道沖まで大へんな油濁りである。八丈島など油の団子が海岸に漂着し、黒潮のへりには油のよごれでサバ稚魚など真黒になって死んでいるのが採集によって明らかにされた。世界最大の海洋研究所（米国ウヅホール）の研究船が北大西

洋でプランクトン採集網におびたしい重油の浮遊滴の汚れのかかる実状をすでに2年前に報告している。海洋を渡って年に10億トンも石油が船で運ばれ年100万トン以上の油が事故や、漏出や、故意の廃棄油として海中へはいりこんでいる。これだけで海洋生物全体の光合成による炭水化物生成に大きな打撃を与えていることがわかった。植物性プランクトンを石油ベンゼン基が置換して殺すことにより海洋の食物連鎖に切れ目を作り、海洋生態系を破壊すると、海洋生産力は一変して危機にさらされることを、ウヅホール海洋研究所のハント博士が昨年東京で開かれた世界合同海洋学大会で発表し、警告を与えた。しかも石油のベンゼン系物質は発ガン物質とされており。生物体内に入りこみ、人体に何万倍と濃縮されたものを食物として摂取するときにはガンの多発をわれわれの周囲に、われわれの間に見る日を迎えざるを得ない。すでにPCB、DDT、BCF等の危険な残留性の強い農薬汚染がわれわれの中へ侵入し、母親の母乳が抽出検査の結果は1人残らず従来の許容基準を突破した汚染状態と判明した。赤ん坊こそ迷惑である。小児ガンの急増を報ぜられるのももっともである。近ごろわれわれの身の辺の誰彼がガンに罹る始末にひしひしと恐ろしさが身に迫る思いである。放射能の始末も十分でず、米国では原子力発電所の総点検をはじめた。あと何年かで東京大地震は免かれぬというが、原子炉は果して十分耐震を保証されているか？米ソ原子力潜水艦の「死の廃液」処理は完全か？「熱点」を大洋中にまき散らしていないか？カジキマグロの水銀事件の真相は？重金属による大気、水、食物、生物、土壌の汚染は激甚の一途である。排気ガスがもとの光化学スモッグの酸化物は毒ガスのように立ちこめて来た。魚貝はアブナイからくわぬとして米もあぶない、養鶏の飼料は今南米から輸入のフィッシュミール（魚粉、カタクチイワシの粉）であるが海が汚染すればニワトリも鶏卵もくえない。

水は川がよごれてシアン（青酸）など垂れ流しを取りしまれず、空気は自動車をそのまま横行さすのでは窒息寸前である。これで生き残るのは至難のわざではないだろうか？

油を精油にまわすより、バラストの水をそのまま今まで通りすてて、会社の儲けをと考えて油濁

を増せばどうらあぶない罰則、罰金は止めようとば候も変わって、陸上砂漠って飲料水のような工場の地盤沈下は急ゼロ海面以下現に東京、千屋、大阪、新車、航空機の発明した便っている。

汚染のないれば救われなれているので路を切り開かれ、河川や湖スモッグが物はだんだん毎日知らず知妙な気になる

聞けば味噌

を増せばどうなるか？ 子孫はもとよりわが身すらあぶないことは明白である。もちろんきびしい罰則、罰金、取締りがなければ利益本位の人たちは止めようとしなげらう。油が海面にひろがれば気候も変わり、海面蒸発も減り、降水は減って、陸上砂漠化し、油混りの海水から高い金を払って飲料水を得ようとするだろう。地下水も今のような工場の汲み上げ一方では枯渇も遠くなく、地盤沈下は急進して、台風のために高しお被害がゼロ海面以下の大都会低地域に激増するだろう。現に東京、千葉、埼玉はその地域にある。名古屋、大阪、新潟なども同様の運命にある。自動車、航空機、プラスチック、ビニール等々と人間の発明した便利なものが今人間を悩ます種子になっている。

汚染のないエネルギー資源の開発に転換しなければ救われない。食糧、水、空気の確保が忘れられているのではないか？ ビルを建て、自動車道路を切り開くには大変熱心だが緑は片っぱし失われ、河川や湖、海はドス黒く変わり、大気は毒ガススモッグが日に日に濃くなって行く。安全な食物はだんだん失われ、一体何を食ったらよいのか毎日知らず知らずに毒殺されているのでないかと妙な気になる。

聞けば味噌、醤油原料の大豆は中共から70—80

%輸入だという。植物蛋白の糧道は中共にお預けである。動物蛋白は遠洋から運びこむ量、外国から輸入する水産物（エビその他）が年々急速に増加して、近海沿岸は海洋汚染で減産一途である。動物蛋白の糧道も他国にお預けである。汚濁の環境で泥マミレ、塵マミレで銭を稼いで買いこみ、レジャーだといって折角の美しい自然を片っぱし急速に破壊している日本である。「金もうけ」に老若とも夢中で人心は日に日に凶悪になり、異常な犯罪行為は続出するし、交通事故は毎日戦場である。土地値上りの投機や競馬ダービー、暴力団繁栄……。日本は自立できるか？ 愛国心、愛郷心を喪失さす方向に急傾斜しているのではないか？ 汚染の垂れ流し、海洋投棄、処理施設より利潤をという思想が根本から反省されるべきときである。

海上輸送が油濁のような重大な海洋汚染を起すことを厳戒せねば、やはり人類滅亡の魁けをなす日本人滅亡のお先棒をかついているとしか言えないだろう。

要は、汚染源を断つことである。拡散方式、水に流す過去の方式はもはや厳禁すべきである。力を合せて清く美しい日本、日本人を祈って筆をおく。



### クロソイド曲線

(clothoid curve) 遠距離を高速で走行するドライバーの視覚や心理状態を検討すると、運転の安定を保たせるには、一直線の道路より、適度なカーブをもった道路がすぐれていることがわかった。このため、人間工学的な立場から算出された曲率にもとづくカーブをクロソイド曲線といい、わが国では名神高速道路にはじめて採用された。

(ダイヤモンド社・時事問題の基礎知識より)